



社教NFTかわら版

中部教育事務所社会教育だより (NFT=network・footwork・teamwork)

中部教育事務所第44号
令和4年3月1日
主任 社会教育主事
駄場友和・藤田望美

地域と共にある学校をめざして (地域学校協働活動)



令和3年度地域学校協働活動研修会 (中部ブロック)

会場校 いの町立伊野小学校

令和3年11月30日、いの町立伊野小学校にて高知県地域学校協働活動研修会(中部ブロック)が開催されました。今、学校は「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子どもたちが未来の創り手となるために、地域の学びを生かした「特色ある学校づくり」を進めています。一方、地域は「学校を核とした地域づくり」を目指すことで、地方創生や人口減少の課題を解決することが重要になります。このように学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動が「地域学校協働活動」です。これからの社会や学びの未来を創っていくのは、「地域」からではないでしょうか。



【学習に1人1台パソコンを活用する学級もありました】

公開授業より

いの町といえば「和紙」といった伝統工芸や「仁淀ブルー」といった自然の美しさが有名です。公開授業ではそういった町の魅力を題材に学び、考える子どもたちの姿がありました。この日、一緒に授業に参加されたのは学習支援ボランティア(ミシンの操作)や、いの町の商工会や観光協会の方々、役場の職員さん、紙の博物館館長さんなど様々です。子どもたちに寄り添いながらアドバイスしたり、学びを評価したり、そして地域のよさを伝えたりと、学んだことと地域社会のつながりが感じられる授業内容でした。

伊野小学校は昨年度よりコミュニティスクール(学校運営協議会)を設置し、学校と地域の定期的な協議の場が設けられています。ここでは「目指す子ども像」についても協議が行われ、子どもたちへの思いや願いが地域と学校で共有されています。今回の発表では、これまでの取り組んできたことが分かるものとなっていました。



【学校による取組紹介】



【グループ協議後の発表】

参加者の感想より

- 美しい環境で地域の力を十分に活用した取組がよく分かりました。
- 地域の人材をいかに活用できるのかということを今日の授業で考えさせられました。
- 他校のボランティア活動やこれから取り組もうとしていることなど、私自身の活動を前向きに考え直すことができました。
- 民生委員と新入生の保護者との関わりがあるのが参考になりました。
- 情報交換ができて良かった。学校規模や地域において課題は変わると改めて学びました。



中部教育事務所管内の社会教育活動を発信します



この「社教NFTかわら版」はみなさんの地域や社会教育活動を応援する情報誌です。社会教育に関わる活動情報がありましたらぜひお知らせください。
連絡先:高知県教育委員会事務局 中部教育事務所 TEL 088-893-6166 FAX 088-893-6167 E-mail 310305@ken.pref.kochi.lg.jp